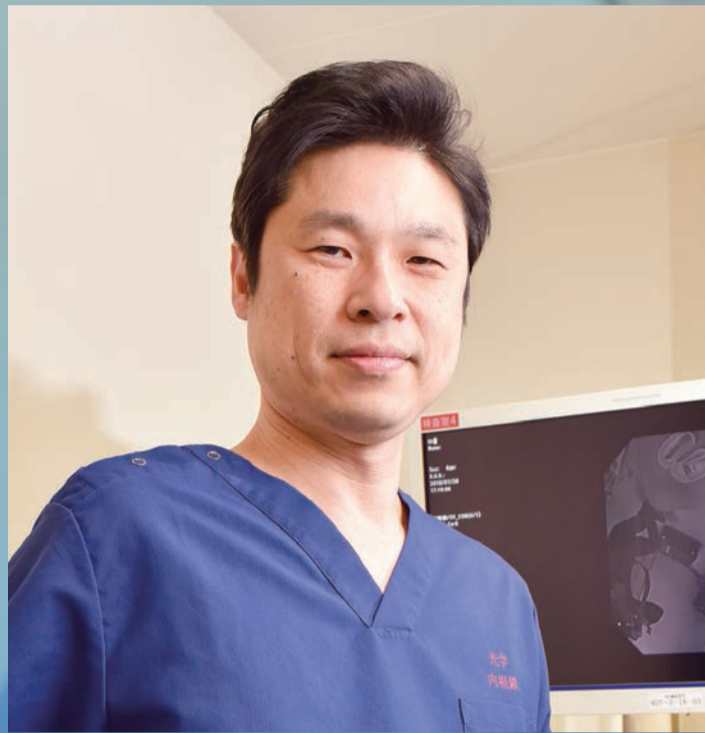


大腸は屈曲した細長い管で、ひだの多い腸壁はわずか約3〜4mmの厚さです。その表面の粘膜から発生するがんを、肛門から挿入した内視鏡で粘膜下層と粘膜をはがし取るように切除する治療法が内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)です。かつては開腹手術で人工肛門にならざるを得なかった直腸がんや、大きな病変も内視鏡で治療できる可能性が広がりました。おなかを切らず、全身麻酔もしないので体への負担が少なく、術後の早期の社会復帰が見込める利点もある低侵襲治療法です。ただし高度な医療技術なのでリスクも伴います。患

者さんには分かりやすい説明で手技についてしっかり理解していただき、まずは信頼関係を築くことが大切です。ESDは日本で生まれた世界に誇る医療技術です。実際に海外へ技術指導に行ったり、医師や医療スタッフが海外から研修のた

めに来日しています。群馬は全国的にみると内視鏡治療の症例数が決して多いとはいえません。最後の砦である群馬大病院で患者さんに質の高い医療を受けていただけよう、「臨床、教育、研究」のそれぞれを充実させるとともに、より多くの内視鏡医を育成し

て地域貢献に努めてまいります。大腸がんで怖いのは進行するまで自覚症状がない点です。これまで早期がんを見つける内視鏡の技術開発にも携わってききましたが、早期治療するには何と云っても検診率を上げることが重要です。毎年のがん検診で便潜血検査を欠かさず、50歳になる前に度は内視鏡の検診を受けることをお勧めします。



がん内視鏡治療のスペシャリスト

消化器・肝臓内科教授 **浦岡 俊夫**
Uraoka Toshio

内視鏡の技術が発展し、早期の大腸がんを開腹せずに治療できる適用範囲が広がっている。今年1月、群馬大病院消化器・肝臓内科教授に就任した浦岡俊夫さんは、高難度の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)で国内初の先進医療を申請し、保険適用につなげた実績を待つスペシャリストだ。



本院に限らず**肝臓病で通院治療中の方**に対し、就労や入退院後の復職のための情報提供などのご相談に社会保険労務士が応じます。

就労支援相談窓口



こんなお悩みありませんか?

- ▲肝臓病の治療をしながら働けるの?
- ▲休職中の社会保障はどうなるの?
- ▲職場の人には肝臓病をどう伝えたらよいの?
- ▲会社に病気のことを言うと差別されそうで心配

一人で悩まずにぜひご相談を!



許諾番号:26-140737

・・・肝臓は沈黙の臓器・・・

肝臓病の多くは、ウイルス感染やアルコール、食べ過ぎ、薬物などの原因で肝細胞が破壊される肝炎です。放置すると慢性肝炎になり、肝硬変や肝がんを発症する危険が高まります。

慢性肝炎の原因の約8割は肝炎ウイルスの感染です。そのうちB型肝炎が10〜15%、C型肝炎は約60%を占めます。肝臓は沈黙の臓器といわれ、自覚症状が出にくいので検査をしないと早期発見することができません。一度、肝炎ウイルス検査を受けることをお勧めします。たとえ感染していても、適切な治療を受ければ完治する見込みが大きく、肝硬変や肝がんへの進行を防ぐことができます。

相談会日程
14:00〜16:00(予約優先)

3/9金 3/19月 4/6金 4/18水

問い合わせ先 群馬大学医学部附属病院 肝疾患センター《受付時間 10:00〜17:00》TEL.027-220-8179 kanzou@ml.gunma-u.ac.jp

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大医学部附属病院

前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)
http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/